

2月1日からブレグジット どうなる？英仏国境



1月30日（木）、2月1日（土）にイギリスがEU（欧州連合）を離脱します。「明後日からなにか変わるのか？」情報誌20ミニッツ（20minutes）が、税関および出入国管理局次長のジャン＝ミッシェル・ティリエ（Jean-Michel Thillier）氏に質問しました。

北駅、空港、陸路の出入国審査は通常通り

フランスとイギリスの間を行き来する人は毎年3000万人に上り、そのうちの約1100万人が高速列車《ユーロスター》（Eurostar）でパリ～ロンドン間を片道約2時間半で移動しています。

現在、乗客のフランスからの出国およびイギリスへの入国審査の両方が、発着するパリ北駅（Gare du Nord）で行われています。よってロンドンセントパンクラス（St Pancras）駅到着時の入国審査はありません。イギリス出国時も同じく出発駅で英仏両方の係官により出入国審査が行われています。

質問：イギリスのEUからの離脱が実現すると「空港や駅での入国審査が長蛇の列になる」といった状況が懸念されますが、実際どうなるのでしょうか？

ティリエ氏：今週末からいきなり出入国審査方法が変更になることはありません。

2月1日より移行期間に突入、2020年末まで

《ブレグジット》といっても実際は今週土曜日からは移行期間に入り、この間に貿易協定などが検討されます。

質問：移行期間中になにが変わりますか？

ティリエ氏：イギリスは元々シェンゲン協定（注）に加入していなかったため、国境での入国審査や税関を撤廃した国とは違い、すでにこれらが国境に配備されています。よって、空港、駅、陸路での両国の出入国はこの期間も現状と何ら変わることはありません。

移行期間が終了するとどうなる？

移行期間の終了と同時にイギリスのEU離脱が実現しますが、気になる《本番》ではどうでしょうか？

質問：移行期間が終了すると、英仏の人の往来にどんな影響がでますか？

ティリエ氏：移行期間が終了したからといって、英仏両国民に対してビザ取得が義務づけられるとは考えにくいですが、この期間に検討され変更になる事項はあるでしょう。

本格的な離脱が実現すると、イギリス人はアメリカ人や中国人などの欧州圏外の外国人と同じ扱いになるため、例えばペット同伴の旅行や《商品》の持ち込みなどに変更が生じると思います。

フランスに入国するイギリス人が持ちこむ《商品》は現行のEU加盟国の課税協定が適用されなくなり、EU圏外の外国人への免税範囲300ユーロ（約36,000円）以上の持ち込みに課税されることとなりますが、移行期間中に課税協定が別途結ばれて緩和されるかもしれません。

多くの取り決めに短期間でかわすのは困難なため、移行期間は2022年末まで延長の可能性もあります。

フランス側のブレグジットの準備は？

ティリエ氏によると、フランスの税関では1年半前から50名の職員が、情報システムを含むブレグジットの準備を行っています。

質問：ブレグジットの準備は万端ですか？

ティリエ氏：人の移動に関しては大きな変更はないと思われませんが、商品の往来に関しては大変な作業が必要とされます。1年間で英仏間を行き来するトラックは1000万台にも上りますので、通関手続きをどうやって短縮するのが、大きな課題です。

注)

シェンゲン協定は、ヨーロッパの国家間で審査なしで国境を越えることを許可する協定です。

執筆：マダム・カトウ

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

